



地方独立行政法人 大阪市博物館機構 年報
【2021 年度】



目 次

ごあいさつ	1
I. 組織	
I – (1) 役員	2
I – (2) 沿革	2
I – (3) 組織図	2
I – (4) 職員	2
II. 大阪市博物館機構のあらまし	3
III. 大阪市博物館機構の事業	
III – (1) 各館の主な事業	4
III – (2) 事務局の主な事業	5
IV. 各施設の活動	
大阪市立美術館	6
大阪市立自然史博物館	8
大阪市立東洋陶磁美術館	10
大阪市立科学館	12
大阪歴史博物館	14
大阪中之島美術館	16
V. 資料	
決算報告書	18
VI. 大阪市博物館機構からのお知らせ	19

ごあいさつ

2022年2月、構想以来40年に亘る開館準備を行ってきた「大阪中之島美術館」が開館し、大阪市博物館機構は、歴史・美術から自然・科学に至るまで、テーマの異なる6つの博物館・美術館を一体的に運営する地方独立行政法人となりました。また、「大阪中之島美術館」は全国の美術館として初めて、PFI コンセッション方式を導入し、民間事業者が経営に直接携わることで、官民の連携による創意工夫を最大限発揮することを目指しています。

2021年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症のまん延を受け、お客様のご来場を制限せざるを得ない状況が続きました。しかしながら、徐々に「With コロナ」として経済活動を本格的に再開する流れが動き出しています。

当機構でも、2020年度に取りまとめた Covid-19 Response Strategy (CRS) の取組みの一環として、お客様との相互のコミュニケーションの活性化や、学芸員の一層の研鑽に向けた、デジタル化による新しいコンテンツの発信（「TALK & THINK」）等に取り組んでまいりました。引き続き、お客様に安心・安全にお越しいただけるように感染対策を徹底しながら運営していくとともに、各館の特色を生かし、連携による相乗効果をこれまで以上に発揮していくことで、大阪市ミュージアムビジョンに掲げられた「都市のコアとしてのミュージアム」を実現し、皆さまと共に「大阪を元気に」していきたいと考えております。

また、2025年に開催される「大阪・関西万博」に向けても、我々が持つ展示品やコンテンツを通じて、大阪の自然や歴史、文化・芸術、科学技術の素晴らしさを発信するとともに、東洋陶磁美術館や大阪市立美術館のリニューアルや、各館共通のインフラの構築等、インバウンドのお客様を含めたお迎え体制の整備に取り組み、「都市の文化拠点」として貢献してまいります。

なお、2022年3月をもって、2008年4月より14年間大阪市立美術館長として大型海外展の誘致や美術家の活動助成、美術館における危機対策等、大阪の美術文化振興に尽力した篠 雅廣は退任し、後任として内藤 栄が就任致しました。また、同じく2008年4月より14年間大阪市立東洋陶磁美術館長として多様な展覧会の開催、調査研究活動の充実等、東洋陶磁研究拠点としての機能強化に尽力した出川 哲朗は退任し、後任として守屋 雅史が就任致しました。在任中に賜りましたご懇情に厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、大阪市博物館機構並びに各館への皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

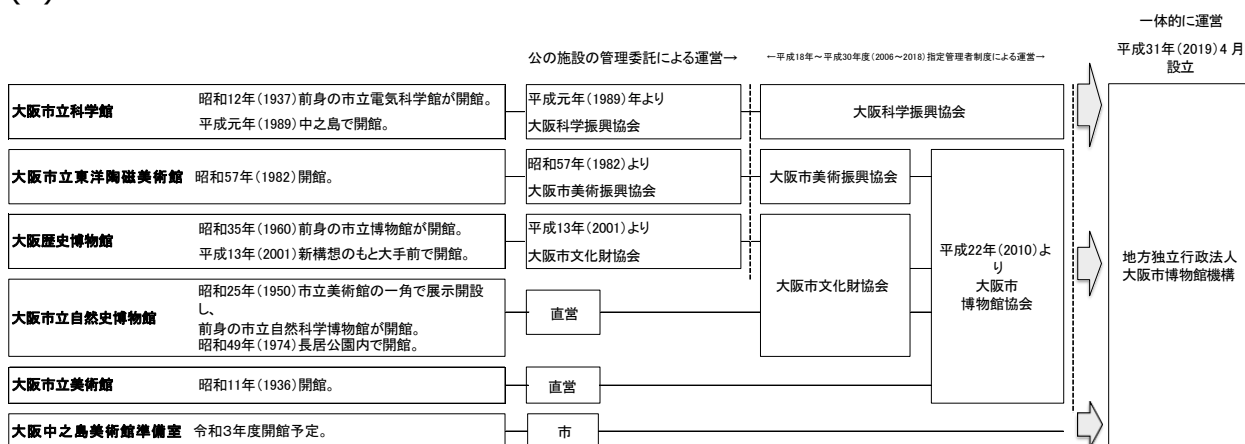
地方独立行政法人 大阪市博物館機構
理事長 真鍋精志

I. 組織

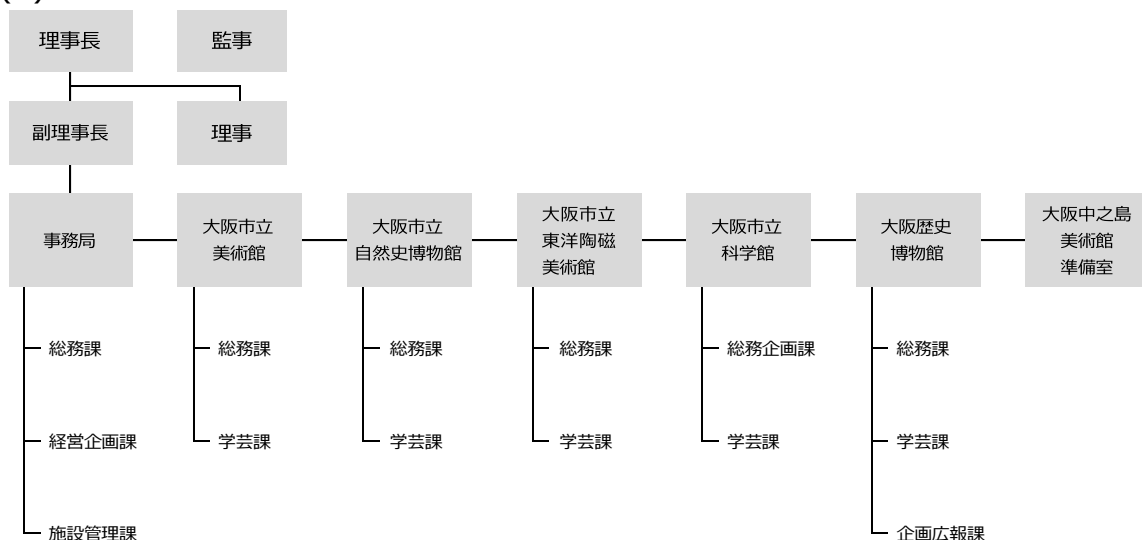
(1) 役員（令和3年4月1日現在）

理事長	真鍋 精志	理事	布谷 知夫
副理事長	安積 孝夫	理事	山梨 俊夫
理事	佐藤 友美子	監事	西尾 方宏
理事	玉岡 かおる		

(2) 沿革



(3) 組織図



(4) 職員（令和3年4月1日現在）

	事務局	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館準備室	計
事務職	26	11	9	8	12	12	3	81
学芸職	3	9	15	6	11	21	11	76
計	29	20	24	14	23	33	14	157

II. 大阪市博物館機構のあらまし

【特徴】

地方自治体として初めて独立行政法人として博物館を運営し、美術、自然、陶磁器、科学、歴史、現代美術といった異なる分野の施設を一体管理しています。

【目的】

地方独立行政法人法大阪市博物館機構は、博物館及び美術館を設置し、歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する資料等を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、当該資料等に関する調査研究及び普及活動を通じて、市民の文化と教養の向上を図るとともに、学術の発展に寄与することを目的としています。

(定款第1条から)

【業務の範囲】

当機構は、上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行っています。

1. 博物館等を設置すること
2. 歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料、その他の資料（以下「博物館等資料」という。）を収集し、保管して公衆の観覧に供すること
3. 博物館等資料に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること
4. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究を行うこと
5. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びに前号の調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと
6. 市民の生涯学習の機会を提供すること
7. 博物館等資料を貸し出し、及び交換すること
8. 他の博物館等、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
9. 第1号の博物館等の運営に関する調査研究及び評価等を行うこと
10. 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと（定款第16条から）

【各館の活動目的】

大阪市立美術館

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立自然史博物館

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指し、人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える事業を行っています。

大阪市立東洋陶磁美術館

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立科学館

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネタリウムの投影、教育普及等の事業を行っています。

大阪歴史博物館

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪中之島美術館

作品資料の調査研究、整理、修復、保存処理といった美術館の基本業務を確実とするとともに、効果的な広報及び情報発信を図り、民間PFI事業者との協働を活かした柔軟性に着目した運営体制を整えるなど、多様な開館準備業務を滞りなく進めます。また、開館後は、館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットフォームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たすべく、大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施します。

III. 大阪市博物館機構の事業

(1) 各館の主な事業

(ア) 博物館資料の収集・保管

購入・寄贈により資料を収集し、寄託による受け入れを行い、それらを適切に保管して将来へ継承します（博物館資料には、歴史・美術・自然・科学・科学技術に関する実物・標本・現象に関する資料などが含まれます）。

館蔵品数（令和4年3月31日時点）

(件)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
8,538	1,926,963	5,705	2,269	146,669	6,151	2,096,295

国宝・重要文化財数

(件)

	大阪市立美術館		大阪市立東洋陶磁美術館		大阪歴史博物館		大阪中之島美術館	
	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品
国宝		5	2			2		
重文	14	114	13	1	671	55	1	

※大阪歴史博物館・大阪中之島美術館については点数

新収蔵品数（購入・寄託・寄贈含む）

(件)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
19	16,253	25	2	491	0	16,790

※大阪中之島美術館準備室については点数、大阪市立美術館・大阪歴史博物館は寄託を含まない

修理点数

(点)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
3	0	4	0	1	3	11

(イ) 博物館資料等に関する調査研究

博物館資料についての専門的な調査研究や、利用者調査をはじめとする博物館運営に関する調査・分析などを行います。

文部科学省科学研究補助金を受けて行った研究

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
3	27	6		1	48

※大阪中之島美術館については科学研費研究機関でないため除外

(ウ) 博物館資料の展示

常設展では、展示替を行いながら館蔵品・寄託品などを公開します。また、各館で年数回の特別展の開催や大阪市立科学館ではプラネタリウムの投影などを行います。

各館観覧者数

	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
常設展	18,200	177,377	18,655	87,815	65,167		367,214
特別展・プラネタリウム	236,412	90,427	18,655	90,747	63,659	126,310	626,210

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日から6月末頃まで全館において臨時休館により公開中止
各館の休館状況については、IV. 各施設の活動よりご参照ください。

(エ) 教育普及事業

講演会・展示解説・ワークショップ・観察会などの事業を通して、活動成果の公開と普及をはかります。

また、学校や教員と連携し、生徒・学生の利用を促します。ボランティア活動やNPO法人との連携により、館活動への参画機会を提供します。各館の特徴に応じた様々な事業を行っています。

(オ) 事業の効果を高める業務

展覧会や教育普及事業において地域や関係団体、マスメディアなどと連携を取り、よりよい事業を構築します。戦略的な広報により、効果的な情報発信を行います。障がい者や外国人をはじめ、だれもが利用しやすい博物館運営を行います。また、館の機能強化やサービス向上のため施設改修に取り組みます。

(カ) 大阪中之島美術館の開館準備

近現代美術・デザインを中心とする大阪中之島美術館（2021年度開館予定）の開館準備業務を行います。

(2) 事務局の主な事業

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努めています。

総務課

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限発揮できるよう、必要な体制整備や職員の育成や、内部統制などその他運営に関する事項について行っています。

- ・職員の職能別・階層別の研修の実施
- ・人事評価制度の検討

経営企画課

大阪市博物館機構に所属する各館の持つ魅力をみなさまにお届けするために、広報誌の作成や、講演会を実施しています。また、法人の適正な目標設定及び自己評価を行うために中期計画及び年度計画の策定及び評価に関する規程等を整備しています。

また、大阪市立大学と教育、研究、社会貢献の分野で知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的連携事業を相互に協力して実施し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び学術文化の向上発展に寄与する事業など教育普及事業にも取り組んでいます。

■ 広報

- ・大阪市内の博物館群 48 館を紹介する冊子「大阪市ミュージアムガイド」の作成
- ・大阪中之島美術館開館に向けてのポスター・チラシの配架、マスメディアへの情報提供
- ・広報誌の作成：ミュージアム情報冊子「Osaka Museums」の印刷・配布（4回発行）



大阪市内の博物館群 48 館を紹介する冊子「大阪市ミュージアムガイド」



ミュージアム情報冊子「Osaka Museums」

■ 教育普及

① 講座

- ・学芸員などによる長期連続講座「TALK & THINK」の開催（16回実施）
- ・出前講座の実施：「見どころたくさん大阪市の博物館・美術館」（1回実施）
- ・ミュージアム連続講座：「天文と歴史」（3週連続）
- ・博学連携シンポジウム：「おおさかを描く、おおさかで描く ～大坂/阪 画壇再考～」

② 大阪市立大学への出講

- ・博物館関連講義へ学芸員を派遣（通年実施：3講座）

③ 学校連携

- ・市内公立小・中学校へ「授業に役立つミュージアム活用ガイド」等の資料を配架し、学校向け利用促進を図った。
- ・教員のための博物館研修「教員のための博物館の日」の実施



「TALK & THINK」の開催チラシ



「ミュージアム連続講座」の開催案内チラシ

施設管理課

美術館・博物館の快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行っています。また、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施しています。

IV 各館等の活動

大阪市立美術館

大阪市立美術館は、市民が優れた美術文化に接する機会を提供し、生活に潤いをもたらすとともに、美術家の活動を助成し、広く大阪の文化振興に資することを目的として、昭和 11 年(1936)5 月に開館しました。美術館は天王寺公園の中に位置していますが、その敷地は住友家の本邸があった所で、美術館の建設を目的に庭園（慶沢園）とともに大阪市に寄贈されたものです。

美術館は設立当初の本館と、平成 4 年(1992)に美術館の正面地下に新設した地下展覧会室からなります。地上 3 階、地下 2 階からなり、本館陳列室では、特別展やコレクション展を開催しています。コレクション展では購入や寄贈によって集まった日本・中国の絵画・彫刻・工芸など 8500 件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しています。これらの作品には国宝や重要文化財に指定された作品も多く含まれています。また地下展覧会室では、常時様々な美術団体が主催する展覧会を開催しています。

本館地下には美術館に付設されている美術研究所があり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っています。

■ 展示・公開

● コレクション展

コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など 8500 件を超える館蔵品と、社寺などから寄託された作品を展示しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月21日まで臨時休館により公開中止

期間	展示名称	入場者数
4月3日～4月24日	桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相 戦国武将像 春夏養陽（しゅんかようよう）— 中国の書画 — 雕刻時光（ちょうこくじこう）北魏の石造仏教・道教彫刻 受贈記念 アンコール・ワットの拓本	3,151人
6月22日～8月15日	大阪の洋画 秀麗精緻 明清時代の工芸 美の殿堂の85年 大阪市立美術館の展示室	6,013人
7月13日～8月15日	小出三郎	
9月4日～10月24日	社寺縁起—聖なるファンタジー— 井口古今堂と近代大阪 — 船場の表具師と芸術ネットワーク —	9,036人

● 特別展

国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月21日まで臨時休館により公開中止

期間	展示名称	入場者数
4月3日～4月24日	豊臣の美術	3,920人
6月22日～8月15日	揚州八怪	7,618人
9月4日～10月24日	聖徳太子 日出づる処の天子	30,042人
11月13日～1月16日	メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年	165,334人
2月26日～3月21日	第8回日展大阪展	29,498人



豊臣の美術



揚州八怪



聖徳太子 日出づる処の天子



メトロポリタン美術館展
西洋絵画の500年

■ 収集・保管・修理

絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入・寄託・寄附によって、作品の収集に努めています。

年月を経て劣化した作品を将来にわたって保存し、継承していくために、展示室や収蔵庫の環境管理・データベース化・資料の状態を考慮しての修理などを行っています。

■ 教育普及

来館者に探求心を抱き、感受性や創造性を育てていただくために、日本・中国を中心とする政界諸地域の文化財について理解を深めるための手助けを行っています。学校との連携やボランティア活動への支援を行うとともに、展示会の講演会を行うことで、都市のコアとしてのミュージアムにふさわしい教育普及活動を実施しています。

● 講演会

展示会などの関連事業としての講演会の実施

● 美術研究所での素描・絵画・彫塑の指導

● 大学との連携

キャンパスメンバーズ制度、講座への出講

■ 調査研究

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について調査研究を行って、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や、文化活動の助成金も活用しています。令和3年度の研究テーマの一部を紹介します。

・礼拝像・祭具制作における素材選択の心性史：材質とその聖性の喧伝に関する調査・研究

・中国南北朝～唐時代における道教礼拝像の地域性研究：河東(山西省西南部)を中心に

沿革

大正9年(1920)	3月30日、市議会の決議により美術館設立が議決される
大正10年(1921)	12月、住友家が美術館建設を条件に茶臼山本邸寄付を大阪市に申し出る
昭和5年(1930)	鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断
昭和9年(1934)	美術館工事再開、外装工事が竣工
昭和11年(1936)	5月1日、大阪市立美術館開館。落成記念展は「改組第一回帝国美術展」
昭和17年(1942)	阿部コレクション中国絵画の寄贈を受ける陸軍による接収をうける
昭和18年(1943)	小西家旧蔵光琳資料の寄贈をうける
昭和19年(1944)	住友家より関西邦画展出品作の寄贈を受ける
昭和20年(1945)	第二次世界大戦終戦連合軍による接収を受け、事務所を移転する
昭和21年(1946)	寄寓先の旧精華国民学校内に美術研究所を開く
昭和22年(1947)	美術館接収解除される
昭和23年(1948)	美術館での展示活動を再開する
昭和26年(1951)	博物館法の制定により教育委員会に移管される
昭和52年(1977)	山口コレクション中国仏教彫刻・工芸の譲渡を受ける(昭和53年度まで)
昭和55年(1980)	田万コレクションの寄贈を受ける
昭和56年(1981)	カザールコレクション漆工の譲渡を受ける(昭和59年度まで)
昭和62年(1987)	天王寺公園が有料化される南館の美術団体展覧会場の一部がアベノベルタに移転し、それに伴い本館南館の一部が常設展示会場となる
平成4年(1992)	美術館正面 地下に展覧会室を新設し、南館とアベノベルタの美術団体展覧会場を統合移転する。南館は常設展示会場となる
平成7年(1995)	小野コレクション 中国石仏の譲渡を受ける(平成14年度まで)
平成27年(2015)	登録有形文化財(建造物)に登録される

施設概要

規模・構造	地上3階、地下3階
延床面積	17,190㎡(本館12,306㎡、新館4,884㎡)
展示面積	6,485㎡
収蔵面積	760㎡(北・中・南の3室)
展示室構成	18室：本館1階、10室 本館2階、8室
地下展覧会室構成	4室：新館地下2階
収蔵庫構成	3室：本館地下2階 北収蔵庫 210㎡ 中収蔵庫 130㎡ 南収蔵庫 420㎡
活動用諸室	美術ホール 本館1階 特別室 本館2階
その他諸室	事務室・学芸室・図書室・書庫ほか 本館地下1階

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館は人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、その変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知っていただく施設です。私たち一人一人が、自然界の構造や諸関係について、幅広い知識を持つことが大切な時代になってきました。自然の保全のためだけでなく、よりよい未来、そしてよりよい生活環境を実現するためにも、大切です。

自然史博物館では、こうしたテーマを「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」と題した4つの常設展示室、そして特別陳列や特別展を通して展示すると共に、年間80～100回程度開催される様々な観察会や講演会などの行事などを通じて様々な角度から、わかりやすく伝えていきたいと思っています。

■ 展示・公開

● 常設展示

常設展示では、人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示しています。また、テーマ展示・ミニ展示といった小規模な企画展示も随時行っております。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月20日まで臨時休館により公開中止
(令和3年度：テーマ展示・ミニ展示)

・「世界一変な火山展」

期間：4月24日～7月4日 入場者数：6,109人

・「和泉層群から41年ぶりに新種記載された異常巻きアンモナイト」

期間：4月23日～7月18日 入場者数：18,247人

・「ホシウスバカゲロウの新種が発見・記載されました」

期間：6月21日～7月4日 入場者数：20,335人

・「砂浜の砂とその自然」

期間：7月24日～9月26日 入場者数：49,901人

・「メタセコイアー命名80周年記念展」

期間：10月9日～11月7日 入場者数：23,483人

・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」

期間：12月11日～2月27日 入場者数：30,926人

・「寅年展」

期間：1月5日～1月30日 入場者数：12,295人

・「岸川椿蔵書」

期間：3月12日～4月3日 入場者数：31,616人

● 特別展

国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催しています。

(令和3年度：特別展)

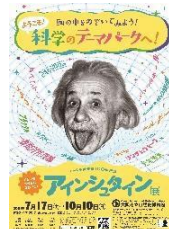
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月20日まで臨時休館により公開中止

期間	展示名称	入場者数
6月21日～6月27日	大阪アンダーグラウンド - 掘ってわかった大地のひみつ -	1,241人
7月17日～10月10日	アインシュタイン展	46,007人
1月14日～2022年4月14日	植物 地球を支える仲間たち	43,179人

※植物 地球を支える仲間たちの入場者数は3月31日時点



大阪アンダーグラウンド
- 掘ってわかった大地のひみつ -



アインシュタイン展



植物
地球を支える仲間たち

■ 収集・保管・修理

大阪市立自然史博物館では、「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理を行っています。

(令和3年度：主な寄贈コレクション)

- ・藤田俊治コレクション（化石・岩石） 733点
- ・東 勇太コレクション（冬虫夏草） 200点

■ 教育普及

活動制度の公開と普及のため、自然観察会など多様な野外行事・講演会などを行っております。

(87回実施、計5,837人参加) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止などのため82回中止

(1) 講座・講演会・シンポジウムなど

- ・学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」の開催
- ・外部の学術団体などと連携したシンポジウムの開催
- ・「おうちミュージアム」と連携した Twitter や HP での情報発信
- ・YouTube への動画コンテンツの公開（1.3万時間再生・チャンネル登録者数1,113名増）

(2) 子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施

- ・常設展・特別展でのワークシートの作成
- ・学校団体の遠足下見、説明会、相談対応

(3) 学生への支援

- ・博物館実習を通じての学生への支援
- ・大学への講師派遣

■ 調査研究

大阪の周辺の自然についての調査や、自然のしくみ・おいたちについての基礎的な研究をしています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補助金を活用しています。令和3年度の研究テーマを一部紹介いたします。

- ・中心的送粉者の欠落が送粉生態の多様化を促進させる～屋久島における実証的研究～
- ・全球的な気候変動が植物の形態進化に及ぼす影響：新第三紀の植物化石を例として
- ・超海洋パンサラッサ海における複合化石生層序と安定同位体比層序

沿革

昭和24年(1949)	自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年(1950)	市立美術館二階廊下において展示開設
昭和27年(1952)	博物館法第10条により登録(第2号)
昭和32年(1957)	市立美術館より西区靉2丁目(元靉小学校校舎改造)に移転
昭和33年(1958)	開館
昭和42年(1967)	大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和48年(1973)	3月 自然史博物館建設工事竣工 4月 自然科学博物館閉館
昭和49年(1974)	4月26日 自然史博物館開館式挙行 4月27日 開館
昭和61年(1986)	展示更新完成
平成13年(2001)	花と緑と自然の情報センター開館
平成18年(2006)	ナウマンホールリニューアル
平成19年-20年(2007-2008)	第5展示室オープン (第一期オープンは平成19年3月24日、第二期は平成20年4月26日)

施設概要

規模・構造	地上3階、地下1階	
延床面積	7,066.01㎡	
展示面積	2,427.48㎡	
収蔵面積	1,971.50㎡	
展示室構成	ナウマンホール	550.35㎡
	第1展示室 身近な自然	360.55㎡
	第2展示室 地球と生命の歴史	486.64㎡
	第3展示室 生命の進化	403.10㎡
	第4展示室 自然のめぐみ	通廊展示
	第5展示室 生き物のくらし	360.55㎡
	2階ギャラリー	266.29㎡
収蔵庫構成	地下1階	
	準備室兼置場(1)	47.99㎡
	準備室置場(2)	68.34㎡
	冷蔵庫室	21.99㎡
	資料前処理室	20.14㎡
	一般収蔵庫	748.34㎡
	特別収蔵庫	688.22㎡
	液浸収蔵庫	323.48㎡
	前室(1)	36.80㎡
	前室(2)	16.20㎡
活動用諸室	講堂・集会室・研究室・実験室・実習室	

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園。大阪市立東洋陶磁美術館は、その緑に溶け込むように建っています。

この美術館は、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ 21 社から寄贈されたことを記念して大阪市が設立したもので、1982(昭和 57)年 11 月に開館しました。館藏品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、「李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクション」の韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈や、日本陶磁の収集などにより、東洋陶磁のコレクションとして世界第一級の質と量を誇っています。このなかには、2 件の国宝と 13 件の重要文化財が含まれています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館藏品の充実が進んでいます。展示では、代表的な作品約 300 件によって中国、韓国、日本の陶磁などを独自の構成と方法により系統的に紹介しています。年 1~2 回の企画展、特別展では専門的なテーマのもとに、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示をめざしています。

作品の魅力をこころゆくまで鑑賞していただけるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台など展示設備にもさまざまな工夫をこらしています。当館は東洋陶磁を中心とした質の高いコレクションを通して、美的体験の場を提供し、豊かな感性の育成と教養の向上に貢献していきます。

■ 展示・公開

● コレクション展

常設展示では、安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館藏品を展示しています。特に、安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的な作品を中心にそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示しています。

また、変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20~30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示も開催しています。(令和 3 年度入場者数：18,655 人)

(令和 3 年度：特集展示)

・「加彩婦女俑に魅せられて」 9 月 28 日~12 月 26 日

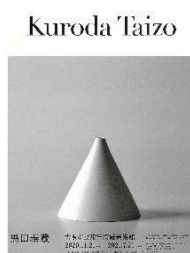
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4 月 25 日~6 月 21 日まで臨時休館により公開中止

● 特別展・企画展

国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催しています。

期間	展示名称	入場者数
2020年11月21日~2021年7月25日	黒田泰蔵	6,766人 ※2021年度実績
2021年8月11日~2022年2月6日	受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器 福井夫妻コレクション 古九谷	11,889人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4 月 25 日~6 月 21 日まで臨時休館により公開中止



黒田泰蔵



受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器
福井夫妻コレクション 古九谷

■ 収集・保管・修理

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指すため、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行っております。また、作品の保存・継承と、展示などによる効果的な活用を高めるため、状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館藏品の修復を行っております。

(令和 3 年度：寄贈作品数 19 件 19 点 寄託作品数 10 件 41 点)

■ 教育普及

来館者に豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たすため、展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催しています。また、博物館額を開講する大学への見学実習の受入れや、館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援しています。

■ 調査研究

国内外の関連研究機関との学术交流、海外への作品貸出を行うとともに調査研究活動を一層充実させ、世界における東洋陶磁の研究拠点としての役割を担っています。また、研究成果を展示や展覧会図録に反映させています。これらの研究には科学研究費補助金なども活用しています。令和3年度の研究テーマの一部を紹介いたします。

- ・東アジア的視点から見た高麗青磁の総合的研究—産地、編年、流通、需要の諸様相
- ・近世における漆継ぎに関する基礎的研究—日本の陶磁器受容の独自性を視座として
- ・近代日本における中国陶磁研究への新たな視座—小森忍の活動を通して

沿革

昭和55年（1980）	住友グループ21社から安宅コレクション寄贈の申し出を受ける 大阪市は中之島公園内に専門美術館を建設することを発表
昭和57年（1982）	11月6日 大阪市立東洋陶磁美術館開館式
昭和58年（1983）	「昭和57年照明普及賞」を受賞
昭和59年（1984）	「建築業協会賞」を受賞
平成8年（1996）	第1次李秉昌コレクション韓国陶磁121件の寄贈
平成10年（1998）	第2次李秉昌コレクション韓国陶磁100件の寄贈 第3次李秉昌コレクション韓国・中国陶磁130件の寄贈
平成11年（1999）	新館開館式典 「韓国陶磁研究奨学生」の募集開始(以後2007年まで毎年度募集)
平成12年（2000）	李秉昌記念陶磁資料室公開 第1次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか204件の寄贈
平成13年（2001）	第2次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか38件の寄贈 第3次堀尾幹雄コレクション中国陶磁ほか23件の寄贈
平成17年（2005）	第4次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか11件の寄贈
平成20年（2008）	沖正一郎コレクション鼻煙壺1139件の寄贈 沖正一郎鼻煙壺展示コーナー新設・公開
平成30年（2018）	第1次松恵コレクション日本陶磁ほか240件の寄贈
平成31年（2019）	第2次松恵コレクション日本陶磁ほか147件の寄贈 辻井コレクション灯火具84件の寄贈

施設概要

規模・構造	地上3階、地下1階	
延床面積	3,921.80㎡	
展示面積	1032.0㎡	
収蔵面積	121.8㎡	
展示室構成	A 韓国陶磁室□	126.0㎡
	B 韓国陶磁室	70.0㎡
	C 韓国陶磁室□	92.3㎡
	D 李秉昌コレクション韓国陶磁室	193.5㎡
	E 日本陶磁室	102.6㎡
	F 特集展示室□	61.2㎡
	G 中国陶磁室	100.0㎡
	H 中国陶磁室（自然採光室）	47.0㎡
	I 中国陶磁室□	110.0㎡
	J 企画展示室□	10.2㎡
K 沖正一郎コレクション鼻煙壺室	19.2㎡	
収蔵庫構成	1階収蔵庫	121.8㎡
活動用諸室	研究室・図書室	
その他諸室	事務室・学芸室・会議室	

大阪市立科学館

大阪市立科学館ではプラネタリウム、展示場、サイエンスショーなど「本物、実物、生の現象」で多くの方々に科学をお楽しみいただいています。設立時を上回る勢いですが、さらに、当館での体験が家庭、学校、職場などを通して社会全体に広く伝播し、科学を楽しむ文化が振興することを目指しています。そして、この文化が科学技術発展の礎になることを願っています。「本物、実物、生の現象」による強い感動があれば実現できるはずと職員一同が切磋琢磨しています。

大阪市立科学館の「本物、実物、生の現象」を具にした科学料理を、どうぞ味わってください。

■ 展示・公開

● 常設展示

常設展示では、「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料を模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行っています。

展示場1階の一部を改修し、新たにスーパーコンピュータ「京」、「いろいろなパソコン」を設置したほか、既存展示の改良を行いました。

(令和3年度実績)

- ・常設展示：入場者数 87,815人
- ・サイエンスショー：演示回数 302回 見学者数 11,550人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月25日～6月21日まで、また施設整備に伴い8月23日～2022年2月2日まで長期休館により公開中止

● 特別展

大阪市立自然史博物館、新聞社、テレビ局などと連携して、大阪市立自然史博物館において特別展「アインシュタイン展」を開催しました。(期間：7月17日～10月10日)

● プラネタリウム

大阪市立科学館では、新しいプログラムを3か月に1本制作・投影しています。幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう、一般投影以外にも、ファミリータイム・学習投影など多種多様なプログラムを提供しております。

今年度はプラネタリウムのリニューアルを行い、全天周映像システム、デジタルプラネタリウムシステム、音響設備、客席レイアウト及び椅子などを改修し、2月2日にオープンしました。

(令和3年度 プラネタリウム入場者数：90,747人)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月25日～6月21日まで、また施設整備に伴い8月23日～2022年2月2日まで長期休館により公開中止

演示名称	内容
一般投影A	「今夜の星空」の解説に加え、下記のテーマ解説を行っています。学芸スタッフ等による生解説が基本となっています。 ・投影回数 332回 ・観覧者数 34,987人 ・タイトル 天王星発見240年、天の川銀河、太陽系グランドツアー
一般投影B	全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による生解説を加えて投影するスタイルで行っています。いずれも当館オリジナル作品となっています。 ・投影回数 254回 ・観覧者数 27,417人 ・タイトル ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～(新作)、まだ見ぬ宇宙へ(新作)
学芸員スペシャル	学芸員の専門・得意分野を生かした投影となっています。 ・投影回数 49回 ・観覧者数 6,245人
学習投影	平日の学校団体専用の学習用プログラムの投影を行っています。 ・見学校 20校 ・投影回数 19回 ・観覧者数 1,420人
ファミリータイム	幼児から小学校低学年までの子供連れの家族(園団体を含む)向けの投影を行っています。 ・投影回数 202回 ・観覧者数 20,538人
スペシャルナイト	天文学の普及と市民の生涯学習を目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を行っています。 ・「星空ライブビューイング～冬の天の川をさがして」2月26日(2回実施) 参加費：無料 241人参加 ・もう一度見たいHAYABUSA 3月5日・3月6日 参加費：1,000円 266人参加

■ 収集・保管

物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っています。また、大学などとの連携を通じて観測器類・実験装置などの収集も行っています。

(令和3年度実績：改善7点)

■ 教育普及

「本物、実物、生の現象」による体験、そして感動をより多くの方に届けるために様々な教育普及活動に力を入れています。

(1) 講座・講演会・シンポジウム・ワークショップ等の開催

・実験教室・講座：天体観望会、大人の化学クラブ、中之島科学研究所コロキウム、夏休み自由研究教室他

・オンライン事業：「連続オンライン講座」(全11回)、「金曜星空トーク」他

子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施等

・展示場ワークシート・学校団体専用の学習用プラネタリウムの投影

・「ジュニア科学クラブ」の実施

・出張サイエンスショー(小学校向け)：30校30件

(2) 学生への支援

・天文を学べる大学・大学院に興味のある高校生、教員などを対象にしたイベント「天文学者大集合！宇宙を学ぶ大学の紹介イベント」の開催(500人参加)

■ 調査研究

当館の運営テーマである「宇宙とエネルギー」を中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究」を行っており、その研究成果を科学に関する資料の収集・保管・展示に反映させています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補助金なども活用しています。令和3年度の研究テーマを一部紹介いたします。

(令和3年度研究テーマ)

・近世天文暦学者の研究過程とその背景

・超高感度望遠 eVscope の天体観測観望会への利用

沿革

昭和61年(1986) 関西電力(株)から大阪市制100周年に賛同し、関西の電気事業創業100年を記念して「科学技術館(仮称)」を建築して寄贈する旨申し出

平成元年(1989) 5月31日(大阪市立電気科学館 閉館)
10月7日 開館

平成2年(1990) のべ100万人来館

平成5年(1993) 第1次展示改装(第1期)オープン
12月25日 のべ300万人来館

平成6年(1994) 第1次展示改装(第2期)オープン
第1次展示改装(第3期)オープン

平成9年(1997) のべ500万人来館

平成11年(1999) 第2次展示改装オープン

平成16年(2004) プラネタリウム機器リニューアル

平成18年(2006) のべ1000万人来館

平成20年(2008) 第3次展示改装オープン

平成21年(2009) オリジナル全天周映像「HAYABUSA-BACK TO THE EARTH-」完成・上映開始
開館20周年記念式典

平成23年(2011) プラネタリウムホールプロジェクトリニューアル

平成25年(2013) 入館者1500万人達成

平成31年(2019) 光学プラネタリウム更新、展示場一部改装し、リニューアルオープン
令和4年(2022) 全天周映像システム更新、展示場一部改修

施設概要

規模・構造	地上4階塔屋、地下1階建て	
延床面積	9,356.45㎡	
展示面積	3,156.3㎡	
収蔵面積	95.7㎡	
展示室構成	プラネタリウムホール	480.0㎡
	1階展示場	344.0㎡
	2階展示場	421.9㎡
	3階展示場	996.0㎡
	4階展示場	1394.4㎡
	天体観測室	25.8㎡
活動用諸室	研修室・工作室・多目的室	
その他諸室	事務管理室・会議室	

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、大阪に住む人たちをはじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した活動を行ってまいります。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざしてまいります。

■ 展示・公開

● 常設展示

常設展示では、古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示しています。また、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催しています。

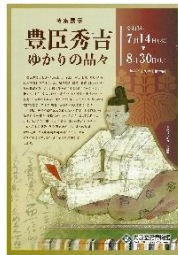
(令和3年度実績)

・常設展示：入場者数 65,167 人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月20日まで臨時休館により公開中止

(特集展示一覧)

- ・3月24日～5月17日 大阪市の新指定文化財—平成28年度から令和2年度まで—
- ・5月19日～7月12日 古代の都 難波京
- ・7月14日～8月30日 豊臣秀吉ゆかりの品々
- ・9月1日～10月25日 大阪の太子信仰—旭区太子橋の太子講資料—
- ・10月27日～12月20日 新発見！なにわの考古学 2021
- ・12月22日～2月21日 大大阪、その西へ—湾岸・河口地域の変遷史—
- ・2月23日～4月18日 新収品お披露目展



大阪市の新指定文化財

豊臣秀吉ゆかりの品々

大阪の太子信仰

新発見！なにわの考古学 2021

大大阪、その西へ

—平成28年度から令和2年度まで—

—旭区太子橋の太子信仰—

—湾岸・河口地域の変遷史—

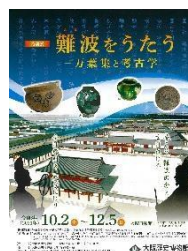
● 特別展・特別企画展

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催しています。

(特別展・特別企画展一覧)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～6月20日まで臨時休館により公開中止

期間	展覧会名	入場者数
4月3日～5月17日	動物絵画はお家芸—大坂・森派の絵描きたち—	2,582人
7月3日～8月15日	あやしい絵展	47,801人
10月2日～12月5日	難波をうたう—万葉集と考古学—	16,026人
1月26日～3月21日	大阪町めぐり 喜連	9,920人



動物絵画はお家芸

あやしい絵展

難波をうたう

大阪町めぐり 喜連

—大坂・森派の絵描きたち—

—万葉集と考古学—

■ 収集・保管

郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民のみなさまに紹介し、理解を深めることを方針とし、この趣旨に沿って歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。

(寄贈 491 件 546 点、寄託 9 件 9 点)

■ 教育普及

「都市おおさか」の歴史と文化を市民のみなさまに紹介するため、様々な事業を行っています。

(1) 講座・講演会・シンポジウムの開催

- ・なにわ歴博講座
- ・考古学入門講座「なにわ考古学散歩」の実施
- ・展覧会と関連した講演会・展示解説の開催

(2) 教員を対象とした研修、教材の開発への支援

- ・小学校・中学校向けの手引書のホームページ上への公開
- ・大阪市教育センターとの連携による教員研修の実施

(3) 学生への支援

- ・学芸員資格の取得を目指す実習生の受け入れ
- ・大学への出講

■ 調査研究

当館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」を実現するため、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について調査研究を実施しています。また、これらの研究には科学研究費助成事業等も活用しています。令和3年度の研究テーマの一部を紹介いたします。

- ・『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究
- ・中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究

沿革

大阪市立博物館（前身）

昭和4～6年 (1929-1931)	大阪城天守閣とともに、第四師団司令部建設のため市民の募金、6年に竣工。後に中部軍司令部、終戦後は駐留軍施設として利用
昭和23年(1948)	旧第四師団司令部を大阪市警本部として返還
昭和33年(1958)	府警から市へ建物返還。市制70周年記念事業として旧第四師団司令部の歴史博物館への転用構想まとまる
昭和35年(1960)	5月 博物館創設事務室設置。館藏品ゼロからのスタート 12月 第1期工事完了、1階開館。第1回特別展「桃山文化展」開催
和37年(1962)	第2期工事完了、全館開館。記念特別展「大阪の名宝」開催
昭和51年(1976)	文部省の科学研究費を申請できる学術研究機関の指定を受ける
成元年(1989)	有料入館者320万人突破
平成12年(2000)	最後の展覧会「開館40周年記念特別展 博物館ものがたり—市民と歩んだ40年—そして未来へ—」開催
平成13年(2001)	閉館

大阪歴史博物館

昭和60年(1985)	大阪市が「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」を発表
昭和62年(1987)	4月 NHKと大阪市が大阪放送会館の旧大阪市中央体育館北側敷地への移転合意。 7月 発掘調査開始（平成2年まで）し、5世紀代と前期難波宮にかかる倉庫群を発見
平成3年(1991)	遺構群を保存する方針を決定し、大阪市考古資料センター（仮称）の設置を決定
平成6年(1994)	旧大阪市立中央体育館跡地での考古資料センターと新博物館の建設を発表
平成9年(1997)	「（仮称）NHK大阪新放送会館および大阪市立新博物館・考古資料センター」の建設工事が着工
平成13年(2001)	4月 大阪歴史博物館条例公布、建物竣工 11月3日 大阪歴史博物館開館

施設概要

規模	地上13階・地下3階建て	
延床面積	23,606.54㎡（専有部）	
	18,989.08㎡（共有部）	
展示面積	4,118.04㎡（常設展示）	
	892.64㎡（特別展示）	
収蔵面積	2,188.11㎡	
展示室構成	10階 難波宮の時代	1,219.37㎡
	9階 大坂本願寺の時代 天下の台所の時代	1,161.34㎡
	8階 特集展示 歴史を掘る、など	196.99㎡ 486.24㎡
	7階 大大阪の時代	1,054.10㎡
	6階 特別展示室	892.64㎡
	地下1階 保存遺構見学室	1,890.00㎡
	第1収蔵庫	456.52㎡
	第2収蔵庫	70.70㎡
収蔵庫構成	写真保管庫	61.77㎡
	第3収蔵庫	109.91㎡
	第4収蔵庫	160.85㎡
	第5収蔵庫	71.35㎡
	第6収蔵庫	543.90㎡
	第7収蔵庫	109.88㎡
	第8収蔵庫	603.23㎡
	その他収蔵・ 保存設備	写真保管庫 燻蒸庫 書庫 X線透過撮影装置ほか
活動用諸室	研究室・講堂・学習情報センター『なにわ歴史塾』	
その他諸室	研修室・会議室、事務室	

大阪中之島美術館

大阪中之島美術館は 2022 年早春に開館しました。

1990 年に準備室が設置されてから 30 年—バブルと呼ばれた時代に産声を上げ、その後の大きく厳しい社会変化を乗り越えての開館です。

30 年は、美術館の開館準備には長すぎる年月だったかもしれません。しかし、作品収集にとってはとても実り多き日々でした。佐伯祐三作品群の受贈に始まり、アメデオ・モディリアーニやルネ・マグリット、フランク・ステラなど、時代を画したアーティストの代表作の購入、さらには市民の皆さまから多数のご寄贈を賜り、今では 5700 点を上回る国内有数のコレクションを形成することができました。

大阪は 2025 年の大阪・関西万博に向け、新たな未来図を描こうとしています。

しかし昨今の新型コロナウイルスの流行が、描きかけの図に濃い影を落としているのも事実です。私たちは、光と影が交錯するこの現代に、ウィズ・コロナ、アフター・コロナの社会に生きる美術館として、市民の皆さまと時に手を携え、時に議論を交わしながら、新しい美術館の像と活動を結びたいと準備を進めています。

多くの方々に足を運んでいただける展覧会の開催はもちろん、訪れること自体が楽しみとなるような施設や機能を備え、市民の皆さまにとって、「ここから始まるアート」を動かすプラットフォームとなることを、大阪中之島美術館はめざしています。

■ 開館に向けて

大阪市北区中之島に新たに設置する大阪中之島美術館について、2021 年度中の開館をめざして整備に取り組んでいます。

新美術館については、平成 26 年 9 月策定の「新美術館整備方針」において、民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムというコンセプトを掲げるとともに、平成 28 年 11 月に策定した「大阪都市魅力創造戦略 2020」において、大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信のための重点取組に位置付けるなど、これまでにない新たな魅力を持った施設をめざしています。新美術館の運営は、作品の収集、保存、研究、展示、教育普及、関連行事開催、大学・企業・地域等との連携、貸室、カフェ・レストラン等の運営など多岐にわたります。本事業は、これら新美術館の特徴を踏まえ、PFI 方式により、民間事業者が各業務を取りまとめ、効率的な美術館の維持管理・運営を行うものです。

■ 開館準備業務の実施

(1) コレクション展及び企画展の開催の準備

- ・収蔵作品資料及び図書等の大阪中之島美術館への輸送準備
- ・開館後に開催する展覧会についての企画立案

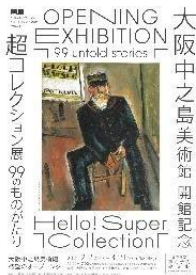
(2) 開館に向けた機運の醸成

- ・PFI 事業者と協働してウェブサイトや SNS 等の更新や充実
- ・トークイベントやシンポジウム等の会館イベントの実施

■ 開館記念企画展

当館の開館にあたり、5 階及び 4 階すべての展示室を活用して、開館記念企画展「Hello! Super Collection 超コレクション展—99 のものがたり—」を開催しました。

期間：2月2日～3月21日 入場者数：126,310人



Hello! Super Collection
超コレクション展—99 のものがたり—

沿革

昭和58年（1983）大阪市制100周年記念事業基本構想の一つ（近代美術館の建設）
 平成2年（1990）近代美術館建設準備室設置
 平成16年（2004）「心斎橋展示室」開設
 平成24年（2012）「心斎橋展示室」閉室
 2月 中之島に新しい美術館を整備することを、戦略会議で決定
 平成25年（2013）6月 市立美術館と新美術館の「建物の統合」は行わず、東洋陶磁美術館を含めた3館について「経営統合」を目指すことを戦略会議で決定
 戦略会議において「新美術館整備方針（案）」の内容を確認し、2020年度までの開館をめざすことを決定
 平成26年（2014）
 平成28年（2016）施設整備は公共で実施し、運営にPFI手法を導入する方針を決定
 平成29年（2017）公募型設計競技（設計コンペ）により設計者を選定
 平成30年（2018）美術館の名称が公募により「大阪中之島美術館」に決定
 3月 公募型プロポーザルによりVIデザイナーを選定
 平成31年（2019）4月 地方独立行政法人大阪市博物館機構設立
 令和元年（2019）6月 大阪中之島美術館の運営におけるPFI事業の実施方針の公表。特定事業の選定及び募集要項等の公表
 令和2年（2020）2月 PFI事業の優先交渉権者の公表
 4月 株式会社大阪中之島ミュージアムと公共施設等運営権実施契約を締結
 令和3年（2021）株式会社大阪中之島ミュージアムに公共施設等運営権を設定
 令和4年（2022）2月2日 開館

施設概要

延床面積	17,305㎡	
展示面積	3,148㎡	
収蔵面積	2,044㎡	
規模	地上5階建	
展示室構成	3室（4階、5階）	
	4階 展示室1	682㎡
	展示室2	733㎡
	5階 展示室3	591㎡
	展示室4	733㎡
	展示室5	409㎡
収蔵庫構成	3室（3階）	
一時保存庫	1室（3階）	
活動用諸室	ワークショッブルーム、ホール	1階 各1室
	書庫、貴重資料保存庫	2階 各1室
	アーカイブス情報室	2階 2室
その他諸室	事務室、会議室、打合せ室、調査研究室、研究資料室、展覧会準備室	

V 資料

■ 決算報告書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算 - 予算)	備考
収入				
運営交付金収入	3,161	3,185	24	
施設整備費補助金収入	818	749	▲ 69	
自己収入	671	515	▲ 156	
事業収入	648	485	▲ 163	
その他収入	23	30	7	
寄付金収入	8	166	158	
補助金等収入	0	29	29	
前年度繰越金	947	492	▲ 455	
計	5,605	5,136	▲ 469	
支出				
業務費	2,654	2,577	▲ 77	
展覧会経費	536	467	▲ 69	
その他業務経費	945	923	▲ 22	
人件費	1,173	1,187	14	
施設整備費	926	831	▲ 95	
修繕費	108	82	▲ 26	
施設整備費補助金	818	749	▲ 69	
一般管理費	1,078	1,051	▲ 27	
機構戦略費	947	492	▲ 455	
計	5,605	4,951	▲ 654	

VI 大阪市博物館機構からのお知らせ

寄 附

ご寄附のお願い

大阪市博物館機構では、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館（2022年2月2日開館予定）を運営し、歴史・美術から自然・科学に至るまで多様な分野において、それぞれの専門性を活かしながら、展示や調査研究など、博物館活動の充実に努めております。

市民の皆さまをはじめ、より多くのお客様にお越しいただける魅力あるミュージアムづくりのために皆さまのご支援をお願いいたします。大阪市博物館機構へのご寄附は、特定公益増進法人に対する寄附金として税制上の優遇措置の対象となります。

▶ 所得税の優遇措置

「寄附金額」または「総所得金額等の40%相当額」のいずれか低い金額から2,000円を除いた額が所得額から控除されます。

▶ 個人市民税の優遇措置

・大阪市に在住の方の寄附金税額控除

市民税の基本控除額（寄附金額 ※注1 - 2,000円）× 8%

※注1 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶ 個人府民税の優遇措置

・大阪市・堺市に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注2 - 2,000円）× 2%

・大阪府（大阪市・堺市を除く）に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注2 - 2,000円）× 4%

※注2 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶ 法人税

寄附金額と損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

詳しくは、国税庁ホームページの・タックスアンサーNo.5283 特定公益増進法人に対する寄附金をご確認ください。

キャンパスメンバーズ

5つの博物館・美術館を管理運営する大阪市博物館機構と、大阪城天守閣を管理運営する大阪城パークマネジメント株式会社、大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館を管理運営する大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体は、7つの施設での大学生等による利用促進を図るため、「キャンパスメンバーズ」制度を設けています。

本制度は、大学・短期大学・専修学校・各種学校・高等学校を単位とし、学生・生徒等のみなさまに、博物館施設の常設展を無料で観覧できる等のサービスを提供するもので、活力ある地域社会の創造及び学術文化の向上発展に向けた人材育成に貢献します。



Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目駅」2号・9号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前

地方独立行政法人 大阪市博物館機構年報

【2021年度】

令和4年4月

編集・発行：地方独立行政法人 大阪市博物館機構©2022

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
電話：06-6940-4330 <https://ocm.osaka>